

第4章 分析結果

本章では、第 3 章で述べた分析手法に基づき引札の分析結果を示し、考察を加える。さらに個人の路上観察の活動から変化したこと・気付いたことなど質問項目を設けて聞き取り調査をした結果をここに挙げ、考察を加える。

4-1 引札分析結果（単純集計結果）

4-1-1 属性

表4-1 引札の属性

写真	973
イラスト	26
写真+イラスト	1

分析対象の 1000 枚の引札の属性を集計した。ほとんどの引札が写真で報告されている。個人で属性を見ると、すべての引札をイラストで報告している会員は 3 人、また写真とイラスト

両方で報告している会員は 3 人（3 人のうち 1 人当りの報告数は 1 件または 2 件）であるが、イラストの報告は少ない。また「普段どんな時に仕入れに行きますか」という質問（4-2 参照）に対し、「カメラを持っていないときはあきらめる」「カメラのある時に仕入れる」という回答から、引札の報告方法として写真が主力になっていることが分かる。

4-1-2 場所

大阪市内（24 区） あきんど会は大阪を拠点としている NPO なので引札の仕入れ場所も

表4-2 仕入れ場所（大阪市） ほとんどが大阪であるが、他府県のイベントに参加した時や（例：

大阪市（24区）
旭区
阿倍野区
生野区
北区
此花区
城東区
住之江区
住吉区
大正区
中央区
鶴見区
天王寺区
浪速区
西区
西成区
西淀川区
東住吉市
東成区
東淀川区
平野区
福島区
港区
都島区
淀川区

1997.10.4 京都府宇治市 歴史街道「宇治十品を探せ！」）個人で出掛けた時には県外や海外での「商品」もある。

表 4-2 は大阪市内（24 区）の仕入れ場所の表である。個人の仕入れと集団の仕入れを合わせ、全ての区において仕入れが行われている。なお、表中グレーで示したものは集団の仕入れでも訪れている地区である。集団での仕入れの具体的な場所は阿倍野区丸山地区（1993.9.26）、北区地下街かいわい（1994.11.29, 1997.7.6, 2002.7.7）、此花区舞洲（2000.6.10, 2001.4.1, 2001.4.2）、此花区ユニバーサルスタジオジャパン（2001.12.16）、住吉区万代池（1998.5.9）、中央区クリスタ長堀（1997.8.3）、中央区堀江・南船場（2002.5.19）、鶴見区緑地公園生き生き地球館（1998.8.9）、天王寺区区民センター周辺（1992.10.18）、天王寺区動物園前界限（1994.4.30）である。また具体的な場所名は特定できず、区名のみ分かるものや、川のように区をまたがるものもある。表 4-3 は、大阪市内での集団での仕入れの場所とイベント名である。

る。

表4-3 あきんど会 大阪市内の仕入れ場所

日時	場所	イベント名
19921018	天王寺区民センターと周辺	上町環境算盤勘定
19930307	阿倍野区丸山地区	環境あきんど手習い塾
19930926	天王寺区	再会記念ウォーキング
19940118	難波八渡し	八渡しめぐり
19940430	動物園前界限(天王寺)	通天閣写真比べ
19941129	大阪市北区地下街界限	なにわ地下街待合探し
19941219	空堀横町(中央区谷町)	あきんど横町かるた公開下見
19950116	梅松院(まとめ場所)	あきんど横町かるた睦月編
19950312	梅松院(まとめ場所)	あきんど横町弥生編
19960421	天満堀川	なにわ八十嶋橋巡り
19960721	蛸川跡昼景色	第2回はしめぐり
19961013	西横堀川	第3回はしめぐり
19970223	西横堀川残り	第4回はしめぐり
19970426	駒川今川	駒川今川不惑橋
19970706	ディアモールなど(北区)	第1回地下街探索
19970803	クリスタなど(中央区)	第2回地下街探索
19980405	住吉区万代池	お花見
19980509	住吉	環境あきんど手習い講座
19980523	住吉	環境あきんど手習い講座
19980607	住吉	環境あきんど手習い講座
19980621	住吉	環境あきんど手習い講座
19980809	生き生き地球館(鶴見区緑地公園)	ECO緑日
19981115	京街道(京橋発)	仕入れ
19981223	港区、西区、大正区	仕入れ
19990418	東横堀川	なにわ八十嶋橋巡り
19990516	天保山	天保山登山と渡し船
20000123	モノレール	モノレールから大阪を見る
20000610	舞洲	作陶の旅
20010401	舞洲	大阪湾島巡りその1-1
20010402	舞洲	大阪湾島巡りその1-2
20011216	ユニバーサルスタジオジャパン	忘年仕入れ
20020114	安倍清明神社	初詣
20020321	天六～中崎町～梅田	仕入れ
20020421	天王寺	四天王参り
20020519	南堀江～南船場へ	仕入れ
20020707	梅田地下街	仕入れ
20021110	千林商店街	仕入れ

大阪府内(大阪24区以外) 表4-4は、大阪府(大阪市内)の仕入れ場所である。表4-2と同様に、グレーの部分は集団での仕入れ場所も含む。集団での仕入れ

表4-4 仕入れ場所(大阪府内) の具体的な場所は、池田市池田城・インスタントラーメン発明記念

大阪府内
池田市
泉佐野市
和泉市
茨木市
門真市
河内長野市
岸和田市
堺市
狭山市
吹田市
高槻市
富田林市
豊中市
阪南市
東大阪市
枚方市
交野市
南河内郡
箕面市
守口市
八尾市

館(2000.4.9) 泉佐野市関西空港(2001.7.8) 堺市蘇鉄山(2000.3.5) 豊中市服部緑地公園(2000.5.28) 阪南市山中溪(2000.7.8,2000.7.9) である。大阪市内と同様、具体的場所名が特定できない場所もこの表に含まれる。表4-5は大阪府内(大阪市内)の集団での仕入れの場所とイベント名である。

表4-5 あきんど会 大阪市内の仕入れ場所

日時	場所	イベント名
19990124	池田市	池田の猪買い
19990214	池田市	池田の猪買い
19990322	池田市	池田の猪買い
19990923	箕面市	総会
20000305	堺市 蘇鉄山	一等三角点を踏みに
20000409	池田城、インスタントラーメン発明記念館	
20000528	服部緑地	民家集落でほのぼの
20000708	阪南	旅モニター
20000709	阪南	旅モニター
20001203	吹田	忘年会/旧庄屋敷拝見
20010708	関西空港	大阪湾島巡りその3

兵庫県

表4-6 仕入れ場所（兵庫県）

兵庫県
尼崎市
淡路島
伊丹市
加古川市
川西市
城崎町
神戸市
三田市
宝塚市
灘区
東灘区
御津町

表 4-6 は兵庫県の仕入れの場所である。表 4-2 と同様に、グレーの部分は集団での仕入れ場所も含む。集団での仕入れの具体的な場所は、淡路島(2001.10.14)神戸三ノ宮～元町(1999.6.20) 神戸五の宮～八宮(1999.11.21) 兵庫県立人と自然の博物館(1997.11.30) 灘・新在家～甲南武庫の郷(1999.12.12) 六甲アイランド(2001.6.17) 御津町室津(2000.6.17,2000.6.18) である。表 4-7 は兵庫県の集団での仕入れの場所とイベント名である。

表4-7 あきんど会 兵庫県の仕入れ場所

日時	場所	イベント名
19971130	三田(兵庫)	ボランティア養成講座の下見
19990620	神戸	神戸宮巡り(一宮～四ノ宮)
19991121	神戸	神戸宮巡りその二
19991212	灘付近	酒蔵で忘年会
20000617	室津	旅モニター
20000618	室津	旅モニター
20010617	六甲アイランド	大阪湾島巡りその2
20011014	淡路島	大阪湾島巡り その二

京都府

表4-8 仕入れ場所（京都府）

京都府
伏見区
東山区
下京区
南区
右京区
山科区
向日市
長岡京市

表 4-8 は京都府の仕入れの場所である。表 4-2 と同様に、グレーの部分は集団での仕入れ場所も含む。この「宇治市」と「木津市」は仕入れが行われたことのみ分かっているが具体的な場所は分らない。表 4-9 は京都府の集団での仕入れの場所とイベント名である。

その他

表4-10 仕入れ場所（その他県外）

大阪府
奈良県
三重県
奈良県
島根県
長野県
和歌山県

他府県

表4-9 あきんど会 京都の仕入れ場所

日時	場所	イベント名
19971004	宇治市	歴史街道、宇治十品を探せ！
19981031	宇治	仕入れ
20000617	室津	旅モニター
20000618	室津	旅モニター
20000909	木津	歴史街道WAWAI会議
20010311	木津	山背古道探検隊

表 4-10 は大阪府、兵庫県、京都府以外の他府県の仕入れの場所である。表 4-2 と同様に、グレーの部分は集団での仕入れの場所も含む。「和歌山県」の集団の仕入れの具体的な場所は和歌山県和歌山市（大和郡山ウォーキング、1997.6.14）である。

海外

表4-11 仕入れ場所（海外）

海外
オーストラリア
台湾

表 4-11 は海外での仕入れの場所である。この 2 国はいずれも個人の仕入れの場所である。全体では希少な海外での仕入れの報告である。

仕入れの場所から言えることは、大阪近辺を中心とした集団の仕入れに加え、個人の仕入れはより広い範囲で行われているということである。個人の仕入れは引札の対象を発見したときであるから、場所を問わずどこでも行われている。つまり「名づけ」を意識しながらまちを歩いたり、風景を眺める視点がはたらいっていると言える。

4-1-3 対象物

ここでは 1000 枚の引札の対象となっているものを第 3 章で設けた分類項目で分類した。なお引札一枚の画像に含まれる対象について、いくつかの分類にまたがるものがほとんどである。次の引札はその一例である。



資料 4-1 写真番号 No.309 店舗拡張 (T.Y さん)

この引札で仕入れをした T.Y さんは、植木屋さんが路地を利用して売り物の鉢を店の外にまで出していることに対し引札の宣伝文句の中で「このような路地の利用の仕方は心地よい感じがする」と評価している。この景観から見受けられる対象物は「道・坂・看板」「景色・雰囲気」「植物」(植木鉢に注目しているため、植物も対象である。) 「人工物」(植木鉢および路地は人によって作られたものなので、自然物ではない。) 「有機物」(注目されている植木鉢は植物を含むので、有機物である。) の五つである。同様の分類で、1000 枚の引札を分類した。

表4-12 対象物分類項目

対象物カテゴリ	分類	数	割合 (%)
看板資源	公共看板	10	11.5
	店舗看板	54	
	告知看板 / サイン	51	
建物資源	建物	284	28.4
生活資源	生活用品	44	4.4
公共の資源	公共物	494	49.4
線状の資源	道 / 坂 / 階段	66	0.66
広がりの資源	景色 / 雰囲気	348	34.8
芸術的資源	記念碑系	53	5.3
宗教的資源	宗教的なもの	45	4.5
飾りの資源	柄 / 模様 / 色	121	22.4
	装飾物	103	
生物の資源	人間	22	35.1
	動物	16	
	植物	149	
	有機物	164	
人工の資源	人工物	856	85.6
非利用の資源	非利用 / 無用物	60	0.6
その他	その他	26	0.26
	計	2966	

すべての対象物がここに示されている。図 4-1 から、引札の対象物には「人工物」「公共物」「景色 / 雰囲気」「建物」が多いことが分かる。特に「人工物」は全体の 85%以上を占め、一番注目されやすい対象であることが分かる。次に多いのは「公共物」で、約 50%を占める。その次に「景色 / 雰囲気」で約 35%、さらにその次に「建物」で約 30%と続く。このことから、引札の対象物として最も多いものは「人工物」であることが分かる。なおこの結果は、1000 枚の引札それぞれに含まれるすべての対象物であるから、「1000 枚中の 856 枚の引札の対象物は人工物である」のではなく、「1000 枚の引札の中に人工物という対象が 856 個ある」という意味である。

表 4-12 は、1000 枚の引札全ての対象物のそれぞれに対し、要素別に分類したものの結果である。一枚の引札に含まれる対象物が複数ある場合がほとんどであるから、図 4-1 に示されるグラフは 1000 枚の引札の中に見られるすべての対象物の分類項目別の集計結果である。つまり 1000 枚の引札のそれぞれの報告者が見たものす

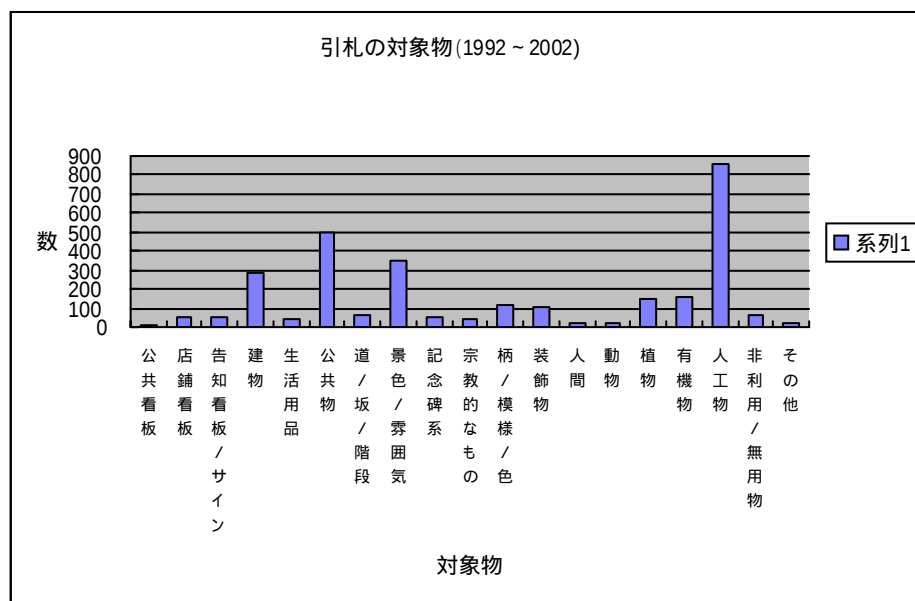


図 4-1 引札の対象物 (1992～2002)

4-1-4 対象物のとらえ方

ここでは、引札の対象物を報告者がどのようにとらえたかを分析する。1992年から2002年までの全ての引札について、対象物のとらえ方を集計した。

表4-13 対象物のとらえ方

とらえ方	計	割合(%)
面資源(全体)	156	15.6
面資源(部分)	230	23
線資源	57	0.57
点資源(全体)	405	40.5
点資源(部分)	152	1.52
計	1000	100

表 4-13 は全引札のそれぞれのメインとなる対象物のとらえ方を集計したものである。ここで「メインとなる対象物」は 4-1-3 で数えられた対象物の中でも、個々の引札について商品名(名前)が付けられているもの、あるいはその引札の中でもっとも注目されている対象物を指す。よってここで扱う対象物は、一枚の引札につき一つである。この表から、対象物のとらえ方として最も多いのは「点資源(全体)」である。逆に最も少ないのは「線資源」である。このことから報告者の視点は、独立して存在する点資源の全体に注目することが多い、と言える。

4-1-5 名前

ここでは、引札に付けられている名前(商品名)の型について、個々の名前に含まれる要素は何か、つまりそれぞれの名前の含む「名前の型」を要素として扱い、引札の名前としてどんな名前の要素が多いかを知るために、それぞれの名前について名前の要素の数を集計した。

表4-14 名前の要素

名前の要素	数
体言止	748
擬人化	227
地名入り	33
文章型	335
○○の□□型	227
そのまま型	176
思いの記述	72
別名の有無	8

表 4-14 は、全引札の名前の要素を集計したものである。なお、この名前の要素は、4-1-3 の「対象物」と同様に、一つの名前の中に複数の名前の要素が含まれる場合がほとんどである。よってこの表の意味は「1000 枚の引札がそれぞれこの要素のいずれかに当てはまる」のではなく、「1000 枚の引札の個々の名前に含まれる要素の数を集計したもの」であり、つまり 1000 枚の引札に付

けられたすべての名前における、一つ一つの要素を集計したものである。

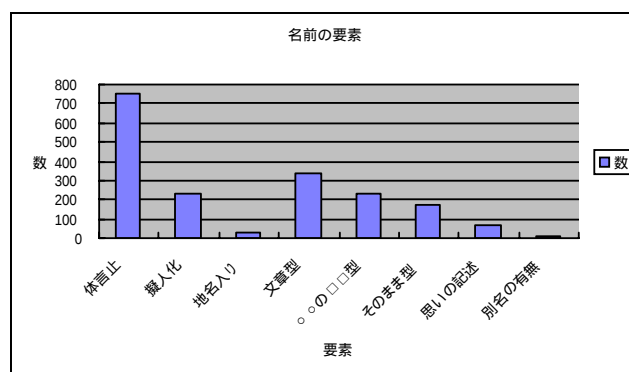


図 4-2 名前の要素

図 4-2 に示された名前の要素から読み取れることは、「体言止」の名前が最も多いこと、次に「文章型」の名前が多いということである。(注:「体言止」の名前は、名詞化されている名前の他に、「文章型」でも文末が名詞(体言)であるものがある。また「文章型」は、名前自体が文章のものであるが、名前の型としてセリフの形になっている名前もこの「文章型」に含まれる。)このことから、引札の名前は「ものの名前」として名づけられることが多い、ということが分かる。名前そのものが、いくつかの要素が重なって出来ている中でも全体の約 75%の名前の特徴として、対象に「ものの名前」を名づけることが分かる。

4-2 個人別分析

ここでは、あきんど会で 8 年以上活動が続けている 5 人の会員を対象に、個人別の引札の分析を行う。分析を行う項目は「対象物」「対象物のとらえ方」「名前」(名前の要素では、細かく見るため「セリフ型」と「文章型」は分けて集計した。)の 3 つである。これらの各項目の年次変化から個人の特徴を探ることを目的とする。なお、個人の視点(対象のとらえ方)と名づけ方(名前の要素)の関係を見るために、発見および報告日の年ごとにクロス集計を行った。

4-2-1 S さんの引札分析

S さんは住吉区在住の 60 代の女性である。報告引札数は 288 件である(うち発見日/報告年月日が不明なものが 3 件)。この S さんの引札について各項目の分析を行った。

対象物

表 4-15 は、S さんの引札の対象物の年毎の集計結果である。特に 1999 年の引札は多く、154 件もある。S さんの対象物の特徴は、「人工物」がもっとも多く引札の対象になりやすい。次に多い対象物は「公共物」「景色/雰囲気」「建物」である。逆に少ない対象物(報告数が 5 以下のものは「公共看板」「人間」「動物」である。なお 1997 年の引札の対象物は、「公共看板」以外のすべてが報告されていることから、この年は最も対象への視点の広がりが見られる年である。

図 4-4 は S さんの対象物の年次変化をグラフ化したものである。

表 4-15 S さんの対象物

年	建物	公共看板	店舗看板	告知看板	道・坂・	公共物	記念碑系	宗教的な	景色・雰囲気	橋・模様	装飾物	人間	動物	植物	人工物	有機物	非利用	生活用品	その他
1993	10	2	1	2	1	11	0	0	3	2	1	0	0	0	22	0	2	0	1
1994	5	0	0	1	0	9	2	1	5	0	0	0	0	7	17	7	2	1	0
1995	3	0	0	1	0	16	1	2	1	1	0	1	3	20	3	6	1	0	
1996	4	0	2	4	1	22	2	1	7	3	4	2	2	10	25	11	2	1	0
1997	4	0	2	1	2	14	2	1	16	3	8	1	1	5	24	7	2	1	2
1998	6	0	1	1	1	18	0	0	4	4	2	0	0	8	23	8	2	4	0
1999	12	0	1	0	2	27	1	4	17	15	5	1	0	7	46	6	8	2	0
2000	10	0	1	0	3	11	0	1	21	5	4	0	1	3	29	1	6	1	1
2001	10	0	1	0	0	14	0	0	17	3	2	0	0	4	22	4	2	2	1
2002	3	0	0	1	0	5	1	0	5	2	1	0	0	0	9	0	0	2	0
不明	0	0	0	0	0	3	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	1	1	0

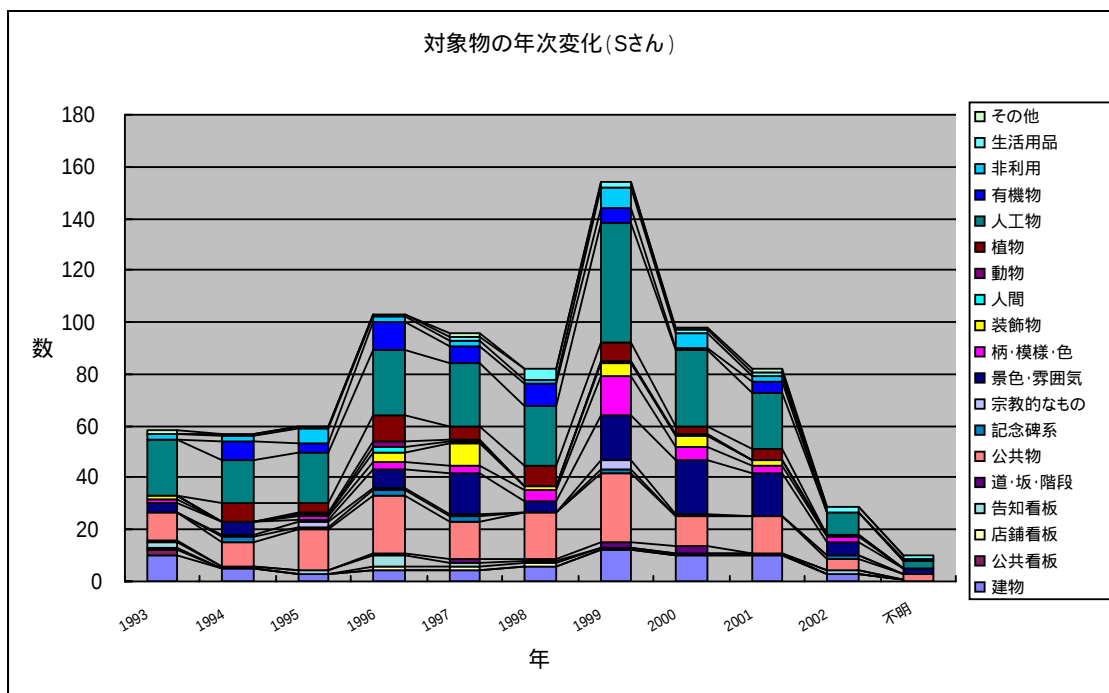


図 4-3 Sさんの対象物の年次変化

対象物のとらえ方

表 4-16 では S さんの対象物のとらえ方の年次変化を集計した。年数を重ねるごとに増えていくとらえ方といった変化は見られないが、「点資源（全体）」は 1994 年、2001 年以外は毎年最も多いとらえ方である。逆に「線資源」は毎年少ない。図 4-5 は S さんの対象物のとらえ方をグラフ化したものである。

表4-16 Sさんの対象物のとらえ方

年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
面資源（全体）	2	5	2	3	5	5	5	5	3	1
面資源（部分）	5	6	4	9	6	1	11	7	10	2
線資源	0	0	0	4	0	4	0	5	1	0
点資源（全体）	8	4	10	16	17	13	24	13	8	5
点資源（部分）	7	9	7	6	4	7	11	3	2	0

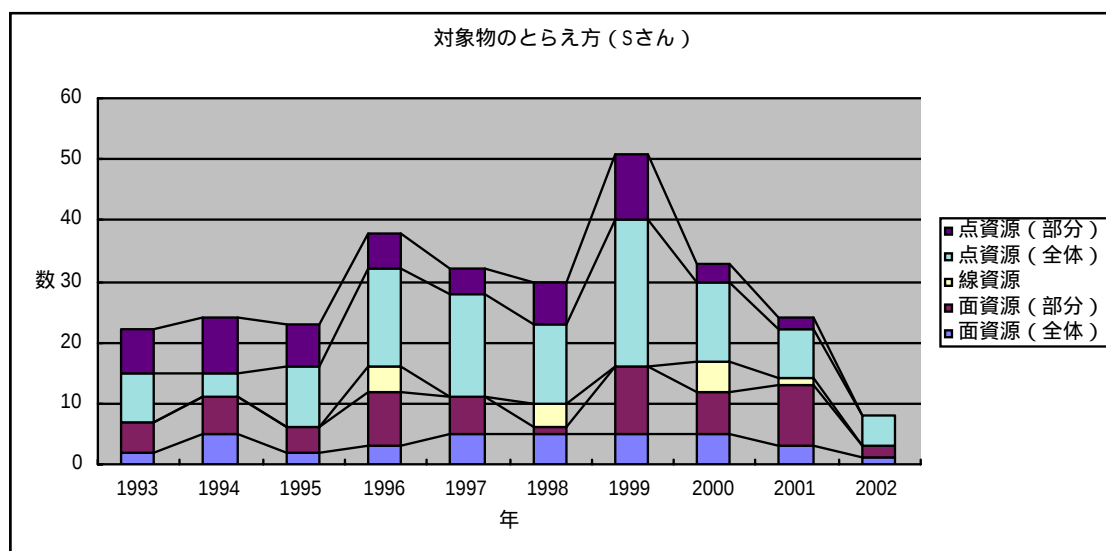


図 4-4 Sさんの対象物のとらえ方の年次変化

名前

表 4-17 は S さんの名前の要素の年次変化である。いずれの年も「体言止」が最も多い。「別名」は全く無かった。また「地名入り」も全体で 2 件しかなく、少ない。また「セリフ型」はほぼ一定の値を毎年報告している。図 4-6 は S さんの名前の要素の年次変化をグラフ化したものである。

表4-17 Sさんの名前の要素の年次変化

年	体言止	擬人化	セリフ型	地名入	文章型	○○の□□型	そのまま型	思いの記述	別名
1993	19	3	3	0	2	2	1	0	0
1994	22	3	2	0	3	8	2	1	0
1995	21	7	2	0	8	1	6	1	0
1996	30	9	3	0	13	6	7	1	0
1997	25	10	5	0	7	5	3	0	0
1998	26	3	2	0	8	6	3	0	0
1999	43	7	2	1	8	12	4	2	0
2000	29	10	2	1	8	4	5	1	0
2001	21	6	2	0	7	1	1	1	0
2002	7	1	1	0	0	2	1	1	0

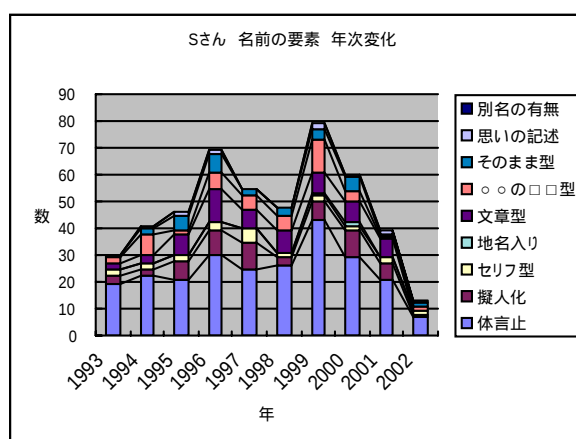


図 4-5 Sさんの名前の要素 年次変化

クロス集計（対象物のとらえ方×名前の要素）

ここでは S さんの年毎の「名前の要素の変化」と、年毎の「対象物のとらえ方の変化」についてクロス集計を行った。カイ二乗検定を有意水準 5%のもとで行った。なおすべての検定の帰無仮説は「名前の要素と対象物のとらえ方の 2 者間には関係がない」とする。

[1993 年]

表4-18 クロス集計(Sさん 1993年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま型	計
面資源(全体)	2	0	0	0	0	0	2
面資源(部分)	4	0	1	1	2	0	8
点資源(全体)	7	1	1	1	0	0	10
点資源(部分)	7	2	1	0	0	1	11
計	20	3	3	2	2	1	31

表4-19 検定結果(Sさん 1993年)

検定統計量	カイ二乗	11.8105303
自由度	φ	15
有意水準	α	0.05
棄却値		24.9957967

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1994 年]

表4-20 クロス集計(Sさん 1994年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま型	計
面資源(全体)	5	0	0	0	4	0	9
面資源(部分)	6	0	0	2	2	1	11
点資源(全体)	4	0	0	1	1	1	7
点資源(部分)	7	3	2	0	1	0	13
計	22	3	2	3	8	2	40

表4-21 検定結果(Sさん 1994年)

検定統計量	カイ二乗	20.6290679
自由度	φ	15
有意水準	α	0.05
棄却値		24.9957967

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1995 年]

表4-22 クロス集計(Sさん 1995年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま型	計
面資源(全体)	2	0	0	1	0	0	3
面資源(部分)	4	0	1	1	0	1	7
点資源(全体)	8	4	1	4	1	4	22
点資源(部分)	7	3	0	2	0	1	13
計	21	7	2	8	1	6	45

表4-23 検定結果(Sさん 1995年)

検定統計量	カイ二乗	8.07727986
自由度	φ	15
有意水準	α	0.05
棄却値		24.9957967

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1996 年]

表4-24 クロス集計(Sさん 1996年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま型	思いの記述	計
面資源(全体)	3	2	0	1	1	0	0	7
面資源(部分)	6	1	0	3	2	3	0	15
線資源	3	0	1	2	0	1	1	8
点資源(全体)	12	3	1	4	2	1	0	23
点資源(部分)	5	2	1	3	1	1	0	13
計	29	8	3	13	6	6	1	66

表4-25 検定結果(Sさん 1996年)

検定統計量	カイ二乗	18.1737226
自由度	φ	24
有意水準	α	0.05
棄却値		36.4150265

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1997 年]

表4-26 クロス集計(Sさん 1997年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま型	計
面資源(全体)	5	1	0	0	2	1	9
面資源(部分)	5	1	0	2	1	1	10
点資源(全体)	12	6	5	2	2	1	28
点資源(部分)	3	2	0	3	0	0	8
計	25	10	5	7	5	3	55

表4-27 検定結果(Sさん 1997年)

検定統計量	カイ二乗	16.3944067
自由度	φ	15
有意水準	α	0.05
棄却値		24.9957967

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1998 年]

表4-28 クロス集計(Sさん 1998年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま型	計
面資源(全体)	5	1	0	1	0	0	7
面資源(部分)	0	0	0	0	0	1	1
線資源	4	1	0	2	2	0	9
点資源(全体)	11	0	2	4	3	1	21
点資源(部分)	6	1	0	1	1	1	10
計	26	3	2	8	6	3	48

表4-29 検定結果(Sさん 1998年)

検定統計量	カイ二乗	24.2351648
自由度	φ	20
有意水準	α	0.05
棄却値		31.4104204

[1999 年]

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

表4-30 クロス集計(Sさん 1999年)

	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	〇〇の□□型	そのまま型	思いの記述	計
面資源(全体)	4	0	0	0	1	0	0	0	5
面資源(部分)	9	2	0	0	2	2	2	1	18
点資源(全体)	14	2	0	1	1	7	1	0	26
点資源(部分)	10	2	1	0	2	3	1	1	20
計	37	6	1	1	6	12	4	2	69

表4-31 検定結果(Sさん 1999年)

検定統計量	カイ二乗	11.4669215
自由度	φ	21
有意水準	α	0.05
棄却値		32.670558

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[2000 年]

表4-32 クロス集計(Sさん 2000年)

	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	〇〇の□□型	そのまま型	思いの記述	計
面資源(全体)	4	2	0	0	2	0	2	0	10
面資源(部分)	6	2	0	0	2	1	0	0	11
線資源	4	1	1	0	1	2	2	0	11
点資源(全体)	13	4	0	1	1	1	1	1	22
点資源(部分)	2	1	1	0	2	0	0	0	6
計	29	10	2	1	8	4	5	1	60

表4-33 検定結果(Sさん 2000年)

検定統計量	カイ二乗	20.5287879
自由度	φ	28
有意水準	α	0.05
棄却値		41.3371517

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[2001 年]

表4-34 クロス集計(Sさん 2001年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	〇〇の□□型	そのまま型	思いの記述	計
面資源(全体)	2	1	1	1	0	0	0	5
面資源(部分)	9	2	0	3	1	1	1	17
線資源	1	0	0	0	0	0	0	1
点資源(全体)	8	2	0	2	0	0	0	12
点資源(部分)	1	1	1	1	0	0	0	4
計	21	6	2	7	1	1	1	39

表4-35 検定結果(Sさん 2001年)

検定統計量	カイ二乗	12.8965309
自由度	φ	24
有意水準	α	0.05
棄却値		36.4150265

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[2002 年]

表4-36 クロス集計(Sさん 2002年)

	体言止	擬人化	セリフ型	○○の□□	そのまま型	思いの記述	計
面資源(全体)	1	0	0	1	0	0	2
面資源(部分)	1	0	1	1	0	1	4
点資源(全体)	5	1	0	0	1	0	7
計	7	1	1	2	1	1	13

表4-37 検定結果(Sさん 2002年)

検定統計量	カイ二乗	7.86479592
自由度	φ	10
有意水準	α	0.05
棄却値		18.307029

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

以上の結果から、Sさんの「名前の要素」と「対象物のとらえ方」には関係が見られないことが分かった。

4-2-2 Cさんの引札分析

Cさんは城東区に住む70代の女性である。報告引札数は49件である(うち発見日/報告年月日の不明なものが2件)。このCさんの引札について各項目の分析を行った。

対象物

表4-38はCさんの対象物の年毎の集計結果である。「人工物」は毎年報告があり、最も多い対象物である。次に多いのは「有機物」である。図4-7はCさんの対象物の年次変化のグラフである。

表4-38 Cさんの対象物

年	建物	公共看板	店舗看板	告知看板	道・坂・	公共物	記念碑系	宗教的なもの	景色・雰囲気	柄・模様	装飾物	人間	動物	植物	人工物	有機物	非利用	生活用品	その他
1992	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
1993	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1994	3	0	0	1	0	4	1	0	1	0	1	0	0	4	10	4	0	2	1
1995	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0
1996	0	0	2	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	2	4	2	0	0	0
1997	4	1	0	1	1	7	0	0	8	2	1	0	1	5	8	5	1	1	0
1998	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
2001	3	0	0	0	0	3	0	0	3	1	0	0	2	0	4	2	0	1	0
2002	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	2	1	0	0	0
不明	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0

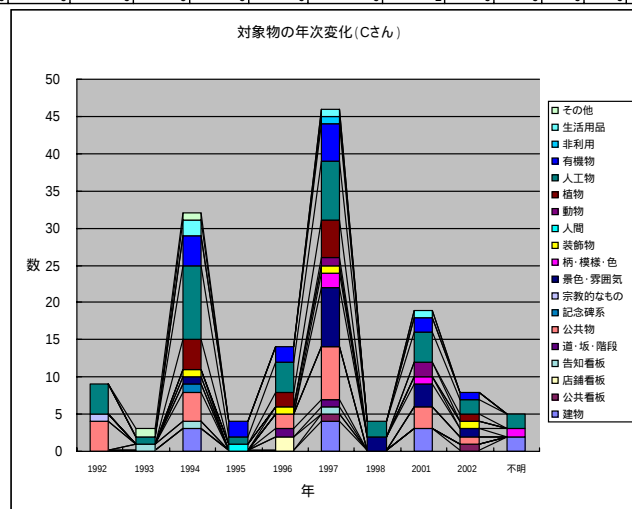


図4-6 Cさんの対象物の年次変化

対象物のとらえ方

表 4-39 は C さんの対象物のとらえ方の年次変化である。1997 年はすべてのとらえ方の引札があり、特徴的である。また「点資源（全体）」のとらえ方は毎年見られる。図 4-8 は C さんの対象物のとらえ方の表をグラフ化したものである。

表4-39 Cさんの対象物のとらえ方の年次変化

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	2001	2002
面資源(全体)	0	0	1	1	0	3	0	3	0
面資源(部分)	0	0	5	0	1	2	0	2	0
線資源	1	0	0	0	1	1	0	0	0
点資源(全体)	3	1	4	1	1	5	2	1	3
点資源(部分)	0	0	2	1	1	1	0	0	0

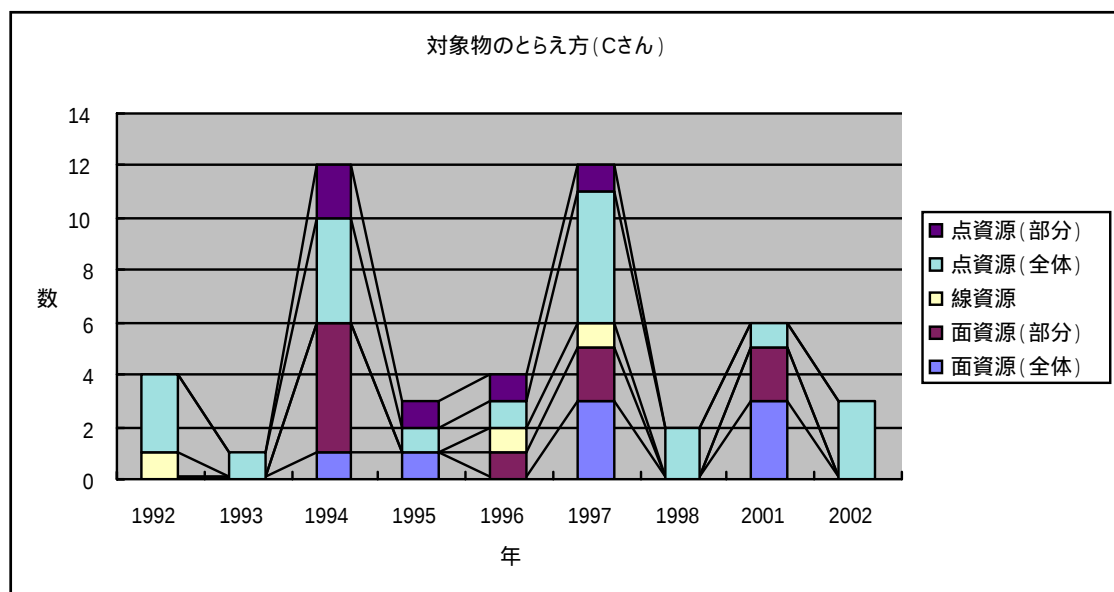


図 4-7 C さんの対象物のとらえ方の年次変化

名前

表 4-40 は C さんの名前の要素の年次変化である。C さんの引札の名前は文章型のものが一番多く、次いで「セリフ型」「体言止」が多い。また、1997 年は最も様々な要素が名前見られる。図 4-9 は C さんの名前の要素の年次変化をグラフ化したものである。

表4-40 Cさんの名前の要素の年次変化

年	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	○○の□□型	そのまま型	思いの記述	別名
1992	4	0	0	0	1	1	1	0	1
1993	0	0	1	1	0	0	0	0	0
1994	3	2	5	1	9	1	2	1	0
1995	0	1	3	0	2	0	0	0	0
1996	2	1	1	0	2	2	1	0	0
1997	7	3	5	0	4	3	1	2	0
1998	1	2	1	0	1	0	0	0	0
2001	1	5	3	0	3	0	0	0	0
2002	3	1	0	0	0	0	2	0	0

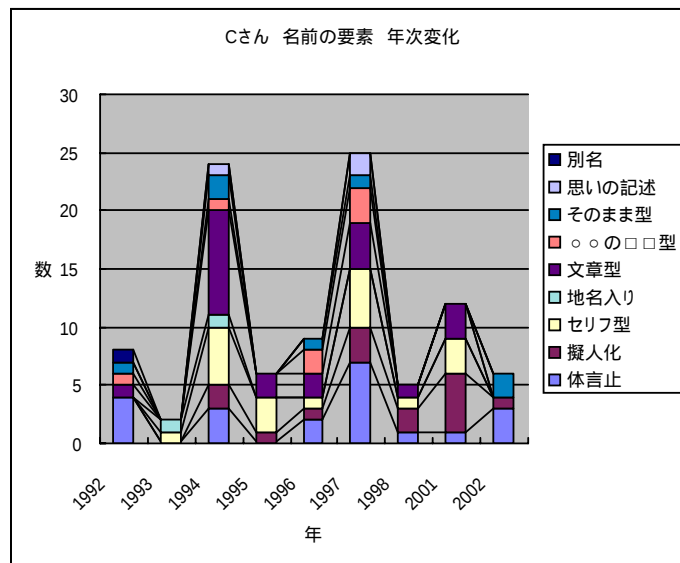


図 4-8 C さんの名前の要素 年次変化

クロス集計（対象物のとらえ方×名前の要素）

ここでは C さんの年毎の「名前の要素の変化」と、年毎の「対象物のとらえ方の変化」についてクロス集計を行った。カイ二乗検定を有意水準 5%のもとで行った。なおすべての検定の帰無仮説は「名前の要素と対象物のとらえ方の 2 者間には関係がない」とする。なお C さんに関しては 1993 年と 1998 年は対象物のとらえ方が一通りのみなので、クロス集計および検定を行わなかった。

[1992 年]

表4-41 クロス集計（Cさん 1992）

	体言止	文章型	のののの型	そのまま型	計
線資源	1	1	0	1	3
点資源（全体）	3	0	1	0	4
計	4	1	1	1	7

表4-42 検定結果(Cさん 1992)

検定統計量	カイ二乗	3.9375
自由度	ϕ	4
有意水準	α	0.05
棄却値		9.487728

帰無仮説は棄却されない＝関係がない。

[1994 年]

表4-43 クロス集計（Cさん 1994年）

	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	のののの型	そのまま型	思いの記述	計
面資源（全体）	0	0	0	1	1	0	0	0	2
面資源（部分）	2	0	2	0	5	0	2	0	11
点資源（全体）	1	1	2	0	2	1	0	1	8
点資源（部分）	0	1	1	0	1	0	0	0	3
計	3	2	5	1	9	1	2	1	24

表4-44 検定結果(Cさん 1994)

検定統計量	カイ二乗	20.53434
自由度	φ	21
有意水準	α	0.05
棄却値		32.67056

[1995 年]

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

表4-45 クロス集計(Cさん 1995年)

	擬人化	セリフ型	文章型	計
面資源(全体)	0	1	0	1
点資源(全体)	1	1	1	3
点資源(部分)	0	1	1	2
計	1	3	2	6

表4-46 検定結果(Cさん 1995)

検定統計量	カイ二乗	2
自由度	φ	4
有意水準	α	0.05
棄却値		9.487728

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1996 年]

表4-47 クロス集計(Cさん 1996年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま型	計
面資源(部分)	1	0	0	0	1	0	0
線資源	0	1	1	1	0	0	2
点資源(全体)	0	0	0	1	0	1	3
点資源(部分)	1	0	0	0	1	0	2
計	2	1	1	2	2	1	9

表4-48 検定結果(Cさん 1996)

検定統計量	カイ二乗	13.36111
自由度	φ	15
有意水準	α	0.05
棄却値		24.9958

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1997 年]

表4-49 クロス集計(Cさん 1997年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま型	思いの記述	計
面資源(全体)	2	0	1	1	1	1	0	0
面資源(部分)	1	1	1	0	1	0	0	6
線資源	1	0	0	0	0	0	0	4
点資源(全体)	2	1	2	3	1	0	2	1
点資源(部分)	0	1	1	0	0	0	0	11
計	6	3	5	4	3	1	2	24

表4-50 検定結果(Cさん 1997)

検定統計量	カイ二乗	14.92727
自由度	φ	24
有意水準	α	0.05
棄却値		36.41503

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[2001 年]

表4-51 クロス集計 (Cさん 2001年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	計
面資源 (全体)	0	2	1	2	5
面資源 (部分)	1	2	1	1	5
点資源 (全体)	0	1	1	0	2
計	1	5	3	3	12

表4-52 検定結果 (Cさん 2001)

検定統計量	カイ二乗	3.04
自由度	φ	6
有意水準	α	0.05
棄却値		12.59158

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

以上の結果から、Cさんの「名前の要素」と「対象物のとらえ方」には関係が見られないことが分かった。

4-2-3 Tさんの引札分析

Tさんは旭区に住む 70 代の女性である。報告引札数は 184 件 (うち発見日 / 報告年月日の不明なものが 5 件) である。このTさんの引札について各項目の分析を行った。

対象物

表 4-53 はTさんの対象物の年毎の集計結果である。「人工物」の報告は毎年されている。特に 2000 年は最も多くの種類の対象物を引札にしている。

表4-53 Cさんの対象物

	建物	公共看板	店舗看板	告知看板	道・坂・階段	公共物	記念碑系	宗教的なもの	景色・雰囲気	柄・模様・色	装飾物	人間	動物	植物	人工物	有機物	非利用	生活用品	その他
1993	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0
1994	2	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
1995	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0
1996	5	0	0	1	2	2	0	0	1	2	1	0	0	3	8	2	0	0	0
1997	7	0	0	2	1	12	2	2	16	1	4	1	0	9	22	10	0	2	0
1998	9	0	1	1	0	6	2	1	9	2	2	0	0	6	17	5	0	1	1
1999	6	0	2	0	0	8	1	2	3	9	5	0	0	5	18	5	0	0	0
2000	6	0	2	2	2	15	4	0	27	2	4	3	0	7	26	8	0	1	3
2001	12	0	0	2	1	28	1	0	33	4	6	0	1	10	29	11	0	1	2
2002	7	0	3	0	1	1	0	2	9	3	0	1	0	2	15	3	1	1	0
不明	1	0	1	0	0	2	0	0	2	1	0	0	0	3	2	2	0	0	0

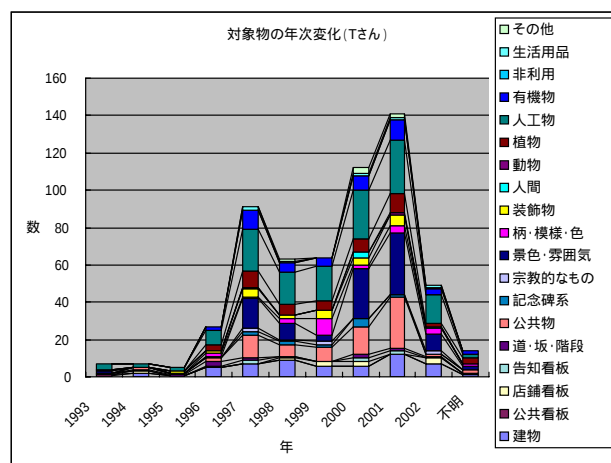


図 4-9 Tさんの対象物の年次変化

対象物のとらえ方

表 4-54 は T さんの対象物のとらえ方である。「点資源（全体）」は全ての年で報告されている。また、1997 年、1998 年、2000 年、2001 年は全ての対象物のとらえ方の引札が報告されている。図 4-11 は T さんの対象物のとらえ方の年次変化をグラフ化したものである。

表4-54 Tさんの対象物のとらえ方

年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
面資源（全体）	0	0	0	1	3	3	1	6	9	2
面資源（部分）	0	1	0	4	11	7	6	7	7	8
線資源	0	0	1	0	3	1	0	2	1	0
点資源（全体）	2	1	1	2	7	11	9	17	13	7
点資源（部分）	1	0	0	2	4	1	6	3	8	0

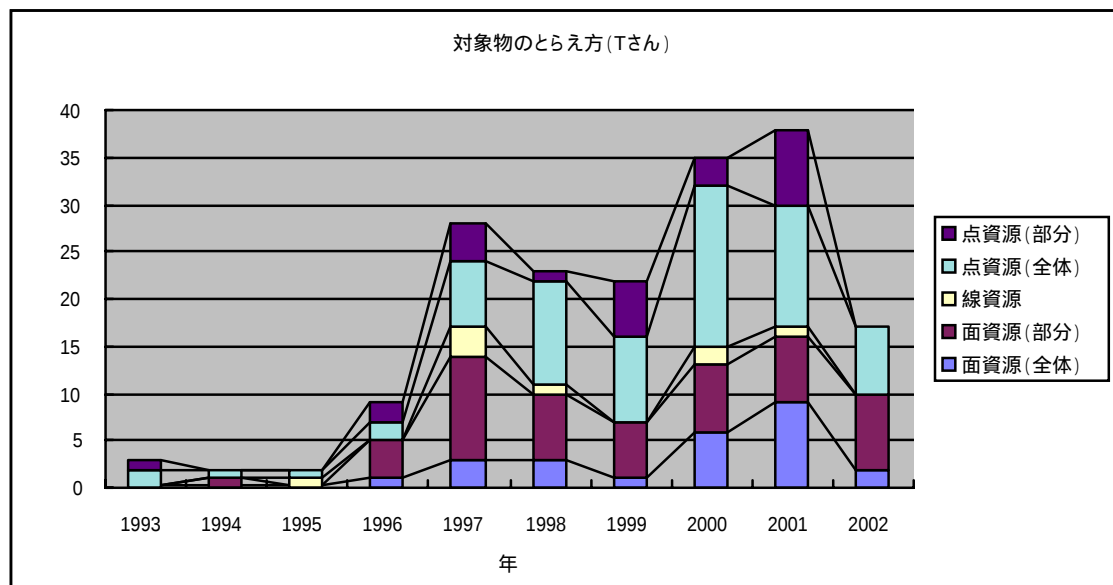


図 4-10 T さんの対象物のとらえ方の年次変化

名前

表 4-55 は T さんの名前の年次変化である。全体的に「体言止」「文章型」「セリフ型」が多いが、中でも「セリフ型」は毎年報告されている。「別名」のある引札はない。なお「擬人化」の名前が現れて来たのは 1997 年以降であることも一つの特徴である。図 4-12 は T さんの名前の要素の年次変化をグラフ化したものである。

表4-55 Tさんの名前の年次変化

年	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	○○の□□	そのまま型	思いの記述	別名
1993	2	0	1	0	1	1	0	1	0
1994	0	0	1	0	1	0	0	2	0
1995	1	0	1	0	0	0	1	0	0
1996	0	0	1	0	2	0	1	0	0
1997	22	8	6	0	12	2	5	0	0
1998	14	11	4	1	9	7	5	2	0
1999	14	8	4	0	10	6	9	2	0
2000	21	10	9	3	19	8	17	5	0
2001	34	12	2	1	14	18	3	2	0
2002	14	5	4	0	7	7	5	3	0

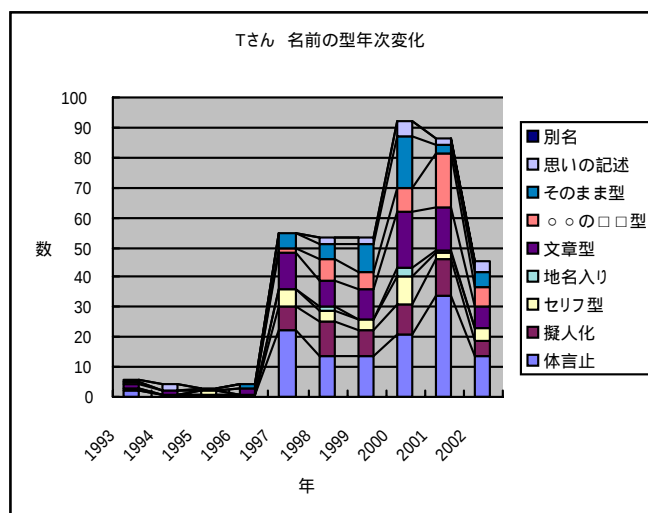


図 4-11 Tさんの名前の要素 年次変化

クロス集計（対象物のとらえ方×名前の要素）

ここでは T さんの年毎の「名前の要素の変化」と、年毎の「対象物のとらえ方の変化」についてクロス集計を行った。カイ二乗検定を有意水準 5%のもとで行った。なおすべての検定の帰無仮説は「名前の要素と対象物のとらえ方の 2 者間には関係がない」とする。

[1993 年]

表4-56 クロス集計（Tさん 1993）

	体言止	セリフ型	文章型	のののの型	思いの記述	計
点資源（全体）	2	0	0	1	0	3
点資源（部分）	0	1	1	0	1	3
計	2	1	1	1	1	6

表4-57 検定結果（Tさん 1993年）

検定統計量	カイ二乗	6
自由度	ϕ	4
有意水準	α	0.05
棄却値		9.48772846

帰無仮説は棄却されない = 関係がない

[1994 年]

表4-58 クロス集計（Tさん 1994年）

	セリフ型	文章型	思いの記述	計
面資源（部分）	0	1	1	2
点資源（全体）	1	0	1	2
計	1	1	2	4

表4-59 検定結果（Tさん 1994年）

検定統計量	カイ二乗	2
自由度	ϕ	2
有意水準	α	0.05
棄却値	棄却値	5.991476357

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1995 年]

表4-60 クロス集計 (Tさん 1995年)

	体言止	セリフ型	そのまま計
線資源	1	0	0
点資源 (全体)	0	1	1
計	1	1	1

表4-61 検定結果 (Tさん 1995年)

検定統計量	カイ二乗	3
自由度	ϕ	2
有意水準	α	0.05
棄却値		5.991476357

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1996 年]

表4-62 クロス集計 (Tさん 1996年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま計
面資源 (全体)	1	0	0	0	1	0
面資源 (部分)	2	1	1	3	0	1
点資源 (全体)	0	0	2	1	0	1
点資源 (部分)	0	2	2	1	0	0
計	3	3	5	5	1	2

表4-63 検定結果 (Tさん 1996年)

検定統計量	カイ二乗	10.28114035
自由度	ϕ	15
有意水準	α	0.05
棄却値		24.99579669

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1997 年]

表4-64 クロス集計 (Tさん 1997年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま計
面資源 (全体)	3	0	0	0	1	0
面資源 (部分)	10	2	1	4	1	1
線資源	2	0	1	2	0	0
点資源 (全体)	7	4	0	2	0	1
点資源 (部分)	0	2	4	4	0	0
計	22	8	6	12	2	2

表4-65 検定結果 (Tさん 1997年)

検定統計量	カイ二乗	24.36565715
自由度	ϕ	20
有意水準	α	0.05
棄却値		31.41042038

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1998 年]

表4-66 クロス集計 (Tさん 1998年)

	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	○○の□□型	そのまま型	思いの記述	計
面資源 (全体)	2	0	0	1	1	1	1	1	7
面資源 (部分)	3	2	2	0	4	2	2	0	15
計	5	2	2	1	5	3	3	1	22

表4-67 検定結果 (Tさん 1998年)

検定統計量	カイ二乗	4.613968254
自由度	ϕ	7
有意水準	α	0.05
棄却値		14.06712726

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1999 年]

表4-68 クロス集計 (Tさん 1999年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま	思いの記述	計
面資源 (全体)	1	0	0	1	0	1	0	3
面資源 (部分)	6	2	0	0	2	2	0	12
点資源 (全体)	5	2	2	5	3	4	2	23
点資源 (部分)	2	4	2	4	1	2	0	15
計	14	8	4	10	6	9	2	53

表4-69 検定結果 (Tさん 1999年)

検定統計量	カイ二乗	10.80819539
自由度	φ	18
有意水準	α	0.05
棄却値		28.86932099

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[2000 年]

表4-70 クロス集計 (Tさん 2000年)

	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	○○の□□型	そのまま	思いの記述	計
面資源 (全体)	4	0	2	0	4	1	4	1	16
面資源 (部分)	5	3	0	1	2	3	3	0	17
線資源	2	0	0	1	1	0	2	0	6
点資源 (全体)	9	5	5	1	10	3	8	3	44
点資源 (部分)	1	2	2	0	2	1	0	1	9
計	21	10	9	3	19	8	17	5	92

表4-71 検定結果 (Tさん 2000年)

検定統計量	カイ二乗	15.97134776
自由度	φ	28
有意水準	α	0.05
棄却値		41.33715169

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[2001 年]

表4-72 クロス集計 (Tさん 2001年)

	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	○○の□□型	そのまま	思いの記述	計
面資源 (全体)	9	2	0	0	2	6	1	0	20
面資源 (部分)	6	3	0	0	2	5	0	1	17
線資源	1	0	0	0	1	0	1	0	3
点資源 (全体)	11	4	1	1	5	3	0	0	25
点資源 (部分)	7	3	1	0	4	4	1	1	21
計	34	12	2	1	14	18	3	2	86

表4-73 検定結果 (Tさん 2001年)

検定統計量	カイ二乗	20.14649899
自由度	φ	28
有意水準	α	0.05
棄却値		41.33715169

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[2002 年]

表4-74 クロス集計 (Tさん 2002年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま	思いの記述	計
面資源 (全体)	3	1	0	1	0	0	0	5
面資源 (部分)	5	2	2	4	3	3	3	22
点資源 (全体)	6	2	2	2	4	2	0	18
計	14	5	4	7	7	5	3	45

表4-75 検定結果 (Tさん 2002年)

検定統計量	カイ二乗	5.551948052
自由度	φ	12
有意水準	α	0.05
棄却値		21.02605538

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

以上の結果から、Tさんの「名前の要素」と「対象物のとらえ方」には関係が見られないことが分かった。

4-2-4 Mさんの引札分析

Mさんは都島区に住む50代の女性である。報告引札数は71件である。このMさんの引札について各項目の分析を行った。

対象物

表4-76はMさんの対象物の年毎の集計結果である。「人工物」「公共物」は毎年報告されており、数も多い。また、2000年は最も対象物の種類が多い年である。図4-13はMさんの対象物の年次変化をグラフ化したものである。

表4-76 Mさんの対象物

	建物	公共看板	店舗看板	告知看板	道・坂・階段	公共物	記念碑系	宗教的なもの	景色・雰囲気	装飾物	人間	動物	植物	人工物	有機物	非利用	生活用品	その他
1992	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
1993	1	0	1	0	1	6	0	0	1	0	1	0	1	9	1	1	1	0
1994	2	0	0	2	1	5	1	1	1	0	0	0	3	7	2	0	1	0
1995	4	0	0	0	3	11	0	0	2	2	1	1	1	15	2	0	0	0
1996	1	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	1	4	0	1	0	0
1997	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0
2000	5	0	0	0	1	5	0	0	10	3	1	0	2	12	2	1	2	2
2001	6	0	0	1	1	11	0	0	7	1	3	1	0	14	0	1	1	1

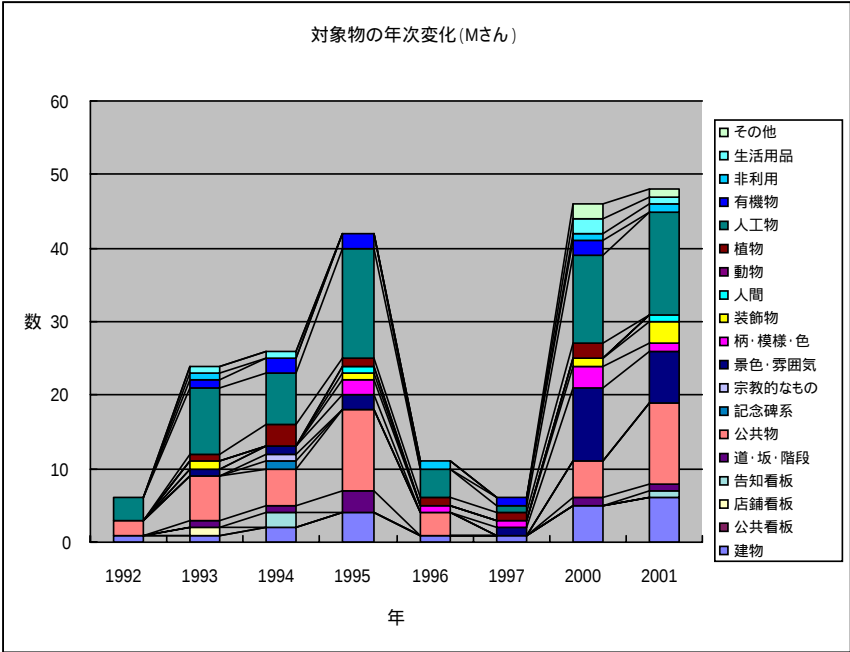


図 4-12 Mさんの対象物の年次変化

対象物のとらえ方

表4-77はMさんの対象物のとらえ方である。「点資源(全体)」のとらえ方をしている引札が最も多い。また、1993年、1995年、2000年、2001年はすべての対象物のとらえ方の報告があり、対象物に対し様々な見方がされたことを示している。図4-14はMさん

の対象物のとらえ方の年次変化をグラフ化したものである。

表4-77 Mさんの対象物のとらえ方

年	1992	1993	1994	1995	1996	1997	2000	2001
面資源（全体）	0	2	2	3	1	0	6	2
面資源（部分）	0	2	2	2	2	0	4	5
線資源	2	1	0	2	0	0	1	1
点資源（全体）	1	4	2	7	0	1	3	4
点資源（部分）	0	1	2	2	1	0	1	2

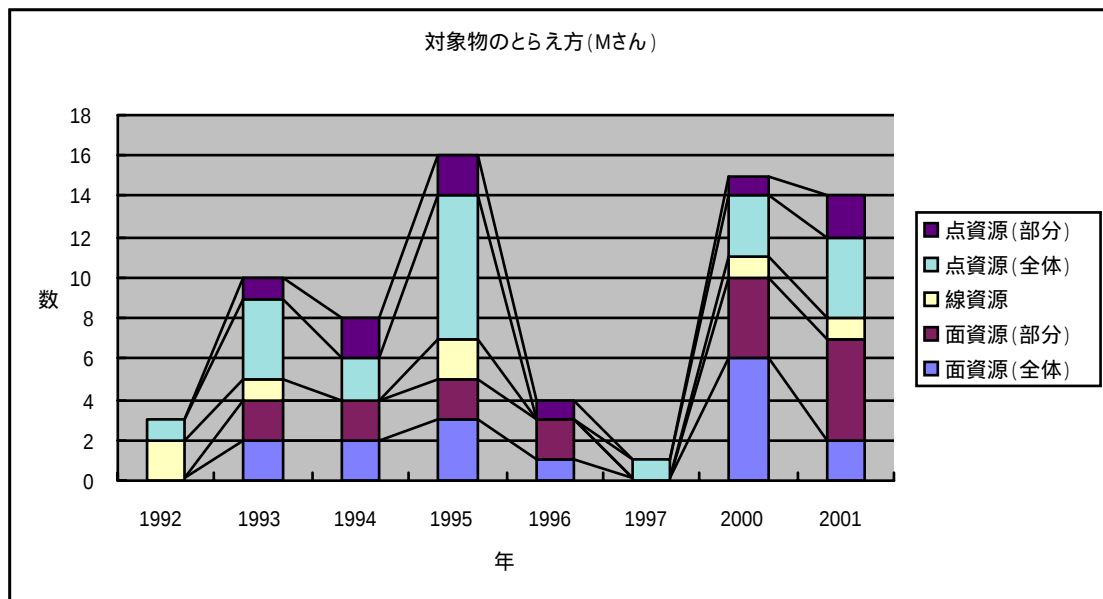


図 4-13 Mさんの対象物のとらえ方の年次変化

名前

表 4-78 は M さんの名前の要素の年次変化である。「体言止」が最も多く、次に「文章型」が多い。「別名」と「地名入り」の名前の要素は全体的に少ない。また 2000 年、2001 年は「別名」以外の全ての名前の要素が見られることが特徴的である。図 4-15 は M さんの名前の要素の年次変化をグラフ化したものである。

表4-78 Mさんの名前の要素の年次変化

年	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	○○の□□	そのまま	思いの記	別名
1992	3	0	0	0	1	0	2	0	0
1993	8	5	1	0	2	3	1	0	0
1994	6	0	2	0	2	1	2	0	0
1995	13	5	1	0	4	7	2	0	0
1996	2	1	1	0	2	1	1	0	1
1997	1	0	0	0	0	1	0	0	0
2000	12	5	3	1	3	4	3	1	0
2001	10	1	1	4	4	4	1	1	0

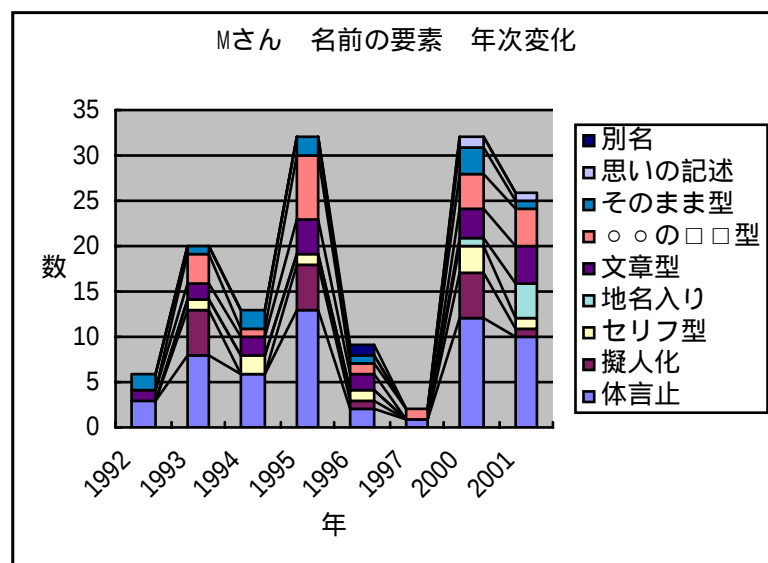


図 4-14 Mさんの名前の要素 年次変化

クロス集計（対象物のとらえ方×名前の要素）

ここでは M さんの年毎の「名前の要素の変化」と、年毎の「対象物のとらえ方の変化」についてクロス集計を行った。カイ二乗検定を有意水準 5%のもとで行った。なおすべての検定の帰無仮説は「名前の要素と対象物のとらえ方の 2 者間には関係がない」とする。また M さんの 1997 年の引札は対象物のとらえ方が一通りのみなので、クロス集計は行わなかった。

[1992 年]

表4-79 クロス集計（Mさん 1992）

	体言止	そのまま型	計
線資源	2	2	4
点資源（全体）	1	0	1
計	3	2	5

表4-80 検定結果（Mさん 1992年）

検定統計量	カイ二乗	0.833333333
自由度	ϕ	1
有意水準	α	0.05
棄却値		3.841455338

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1993 年]

表4-81 クロス集計（Mさん 1993年）

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□	そのまま型	計
面資源（全体）	2	1	0	0	1	0	4
面資源（部分）	1	1	0	1	1	1	5
線資源	1	1	0	0	0	0	2
点資源（全体）	3	1	1	1	1	0	7
点資源（部分）	1	1	0	0	0	0	2
計	8	5	1	2	3	1	20

表4-82 検定結果 (Mさん 1993年)

検定統計量	カイ二乗	9.323809524
自由度	φ	20
有意水準	α	0.05
棄却値		31.41042038

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1994 年]

表4-83 クロス集計 (Mさん 1994年)

	体言止	セリフ型	文章型	○○の□□	そのまま型	計
面資源 (全体)	2	0	0	1	1	4
面資源 (部分)	0	2	2	0	1	5
点資源 (全体)	2	0	0	0	0	2
点資源 (部分)	2	0	0	0	0	2
計	6	2	2	1	2	13

表4-84 検定結果 (Mさん 1994年)

検定統計量	カイ二乗	14.40833333
自由度	φ	12
有意水準	α	0.05
棄却値		21.02605538

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1995 年]

表4-85 クロス集計 (Mさん 1995年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□	そのまま型	計
面資源 (全体)	3	1	0	1	2	0	7
面資源 (部分)	1	1	0	1	1	0	4
線資源	2	0	0	0	1	1	4
点資源 (全体)	6	3	1	1	2	1	14
点資源 (部分)	1	0	0	1	1	0	3
計	13	5	1	4	7	2	32

表4-86 検定結果 (Mさん 1995年)

検定統計量	カイ二乗	9.557927786
自由度	φ	20
有意水準	α	0.05
棄却値		31.41042038

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1996 年]

表4-87 クロス集計 (Mさん 1996年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□	そのまま型	別名の有無	計
面資源 (全体)	1	0	0	0	0	0	1	2
面資源 (部分)	1	0	0	1	1	1	0	4
点資源 (部分)	0	1	1	1	0	0	0	3
計	2	1	1	2	1	1	1	9

表4-88 検定結果 (Mさん 1996年)

検定統計量	カイ二乗	12
自由度	φ	12
有意水準	α	0.05
棄却値		21.02605538

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[2000 年]

表4-89 クロス集計 (Mさん 2000年)

	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	○○の□□	そのまま型	計
面資源 (全体)	4	1	2	1	3	1	2	14
面資源 (部分)	4	1	0	0	0	2	1	8
線資源	1	0	0	0	0	1	0	2
点資源 (全体)	2	2	1	0	0	0	0	5
点資源 (部分)	1	1	0	0	0	0	0	2
計	12	5	3	1	3	4	3	31

表4-90 検定結果 (Mさん 2000年)

検定統計量	カイ二乗	17.47071429
自由度	ϕ	24
有意水準	α	0.05
棄却値		36.41502646

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[2001 年]

表4-91 クロス集計 (Mさん 2001年)

	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	○○の□□	そのまま型	思いの記述	計
面資源 (全体)	2	0	0	0	1	0	1	1	5
面資源 (部分)	3	1	1	1	2	1	0	0	9
線資源	1	0	0	1	0	0	0	0	2
点資源 (全体)	3	0	0	2	0	3	0	0	8
点資源 (部分)	1	0	0	0	1	0	0	0	2
計	10	1	1	4	4	4	1	1	26

表4-92 検定結果 (Mさん 2001年)

検定統計量	カイ二乗	18.8786111
自由度	ϕ	28
有意水準	α	0.05
棄却値		41.3371517

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

以上の結果から、Mさんの「名前の要素」と「対象物のとらえ方」には関係が見られないことが分かった。

4-2-5 Yさんの引札分析

Yさんは東淀川区に住む70代の女性である。報告引札数は81件である。このYさんの引札について各項目の分析を行った。

対象物

表4-93はYさんの年毎の対象物の集計結果である。「人工物」「公共物」は毎年報告されている。また、1997年は最も対象物の種類が多く、対象への見方が広がっている。図4-16はYさんの対象物の年次変化をグラフ化したものである。

表4-93 Yさんの対象物

	建物	公共物	店舗	看板	告知	道・坂	公共物	記念碑	宗教的な	景色・景観	鳥柄・模様	装飾物	人間	動物	植物	人工物	有機物	非利用	生活用品	その他
1992	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
1993	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
1994	5	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	8	0	0	0	0
1995	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1996	1	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	2	0	0	1	6	1	1	1	0
1997	1	0	1	0	1	8	5	1	5	2	1	1	0	1	10	2	0	0	0	0
1998	2	0	0	0	1	4	2	0	1	1	0	0	0	3	5	3	1	0	0	0
1999	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
2000	4	0	0	0	1	5	0	1	7	0	0	0	0	0	2	5	1	0	0	0
2001	12	0	0	0	4	21	3	1	20	5	3	0	0	5	27	5	0	0	0	0
2002	2	0	0	0	1	3	0	0	0	3	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0

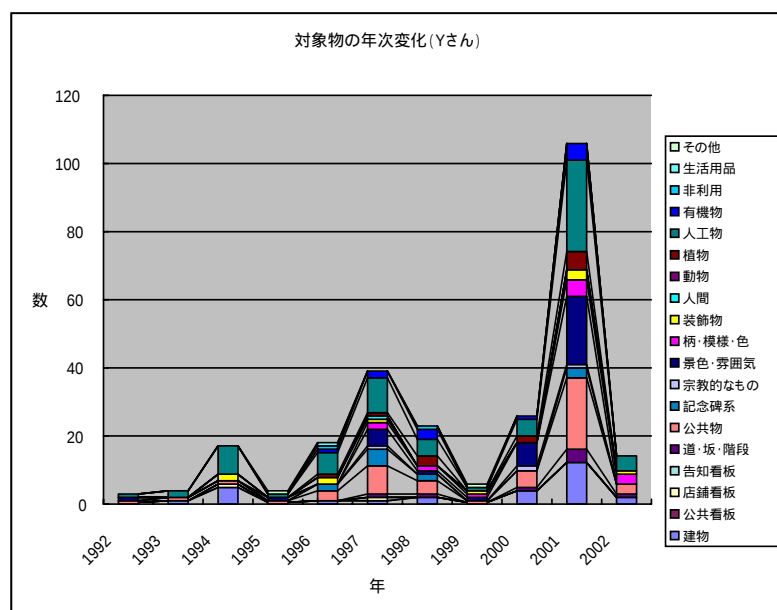


図 4-15 Yさんの対象物の年次変化

対象物のとらえ方

表 4-94 はYさんの対象物のとらえ方である。ほぼ毎年見られるとらえ方は「点資源（全体）」である。また、2001 年はすべての対象物のとらえ方が見られることから、対象に対し見方が最も広がった特徴的な年だといえる。図 4-17 はYさんの対象物のとらえ方の年次変化をグラフ化したものである。

表4-94 Yさんの対象物のとらえ方

年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
面資源(全体)	0	1	0	0	2	1	2	0	12	2
面資源(部分)	2	0	0	0	4	1	0	1	3	1
線資源	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
点資源(全体)	0	7	1	6	5	6	1	6	11	0
点資源(部分)	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0

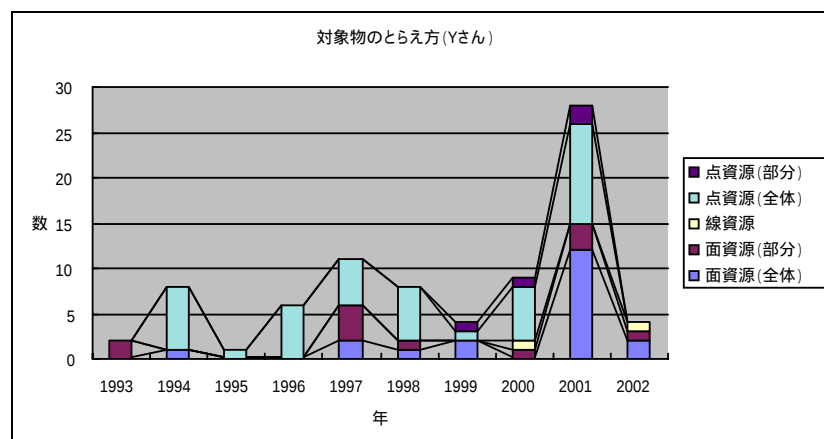


図 4-16 Yさんの対象物のとらえ方の年次変化

名前

表 4-95 は Y さんの名前の要素の年次変化である。全体では「体言止」が最も多く、毎年報告されている。次いで「○○の□□型」「文章型」が多い。「別名」のある引札はない。また 1994 年は最も名前の要素がたくさん見られる年であり、特徴的である。図 4-18 は Y さんの名前の要素の年次変化をグラフ化したものである。

表4-95 Yさんの名前の要素の年次変化

年	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	○○の□□型	そのまま	思いの記述	別名
1993	2	1	0	0	0	0	0	0	0
1994	2	3	3	0	6	1	1	1	0
1995	1	0	0	0	1	0	0	0	0
1996	5	1	1	0	2	1	0	0	0
1997	8	2	2	0	3	4	1	0	0
1998	7	3	0	0	1	4	0	0	0
1999	3	0	0	0	2	0	0	0	0
2000	8	2	1	0	0	2	1	0	0
2001	22	5	1	2	7	10	0	0	0
2002	3	2	1	0	0	3	0	0	0

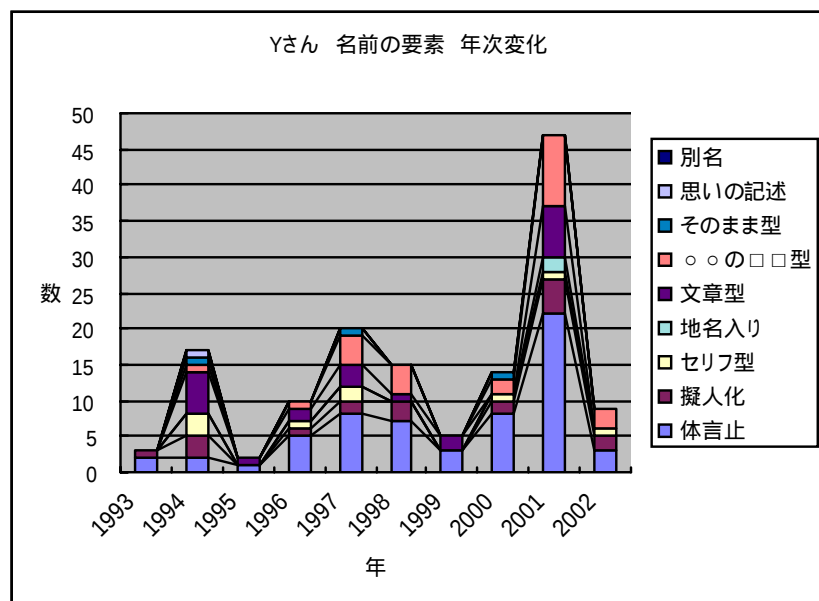


図 4-17 Y さんの名前の要素 年次変化

クロス集計（対象物のとらえ方×名前の要素）

ここでは Y さんの年毎の「名前の要素の変化」と、年毎の「対象物のとらえ方の変化」についてクロス集計を行った。カイ二乗検定を有意水準 5%のもとで行った。なおすべての検定の帰無仮説は「名前の要素と対象物のとらえ方の 2 者間には関係がない」とする。また Y さんの 1993 年、1995 年、1996 年の引札は対象物のとらえ方が一通りのみなので、クロス集計は行わなかった

[1994 年]

表4-96 クロス集計 (Yさん 1994年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま型	思いの記述	計
面資源 (全体)	0	1	0	1	0	0	0	2
点資源 (全体)	2	2	3	5	1	1	1	15
計	2	3	3	6	1	1	1	17

表4-97 検定結果 (Yさん 1994年)

検定統計量	カイ二乗	2.55
自由度	ϕ	6
有意水準	α	0.05
棄却値		12.59157742

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1997 年]

表4-98 クロス集計 (Yさん 1997年)

	体言止	擬人化	セリフ型	文章型	○○の□□型	そのまま型	計
面資源 (全体)	1	1	1	1	0	1	5
面資源 (部分)	2	1	1	2	2	0	8
点資源 (全体)	5	0	0	0	2	0	7
計	8	2	2	3	4	1	20

表4-99 検定結果 (Yさん 1997年)

検定統計量	カイ二乗	11.20238095
自由度	ϕ	10
有意水準	α	0.05
棄却値		18.30702904

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[1998 年]

表4-100 クロス集計 (Yさん 1998年)

	体言止	擬人化	文章型	○○の□□型	計
面資源 (全体)	0	0	1	0	1
面資源 (部分)	1	0	0	1	2
点資源 (全体)	6	3	0	3	12
計	7	3	1	4	15

表4-101 検定結果 (Yさん 1998年)

検定統計量	カイ二乗	15.9375
自由度	ϕ	6
有意水準	α	0.05
棄却値		12.59157742

帰無仮説を棄却する = 関係がある。

[1999 年]

表4-102 クロス集計 (Yさん 1999年)

	体言止	文章型	計
面資源 (全体)	1	2	3
点資源 (全体)	1	0	1
点資源 (部分)	1	0	1
計	3	2	5

表4-103 検定結果 (Yさん 1999年)

検定統計量	カイ二乗	2.222222222
自由度	ϕ	2
有意水準	α	0.05
棄却値		5.991476357

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[2000 年]

表4-104 クロス集計 (Yさん 2000年)

	体言止	擬人化	セリフ型	○○の□□型	計
面資源 (部分)	1	0	0	0	1
線資源	1	1	0	0	2
点資源 (全体)	5	1	1	2	9
点資源 (部分)	1	0	0	0	1
計	8	2	1	2	13

表4-105 検定結果 (Yさん 2000年)

検定統計量	カイ二乗	3.881944444
自由度	ϕ	9
有意水準	α	0.05
棄却値		16.91896016

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[2001 年]

表4-106 クロス集計 (Yさん 2001年)

	体言止	擬人化	セリフ型	地名入り	文章型	○○の□□型	計
面資源 (全体)	10	2	0	2	4	4	22
面資源 (部分)	2	1	0	0	1	1	5
点資源 (全体)	8	1	1	0	2	3	15
点資源 (部分)	2	1	0	0	0	2	5
計	22	5	1	2	7	10	47

表4-107 検定結果 (Yさん 2001年)

検定統計量	カイ二乗	7.700527351
自由度	ϕ	15
有意水準	α	0.05
棄却値		24.99579669

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

[2002 年]

表4-108 クロス集計 (Yさん 2002年)

	体言止	擬人化	セリフ型	○○の□□型	計
面資源 (全体)	2	2	0	2	6
面資源 (部分)	0	0	1	1	2
線資源	1	0	0	0	1
計	3	2	1	3	9

表4-109 検定結果 (Yさん 2002年)

検定統計量	カイ二乗	7
自由度	ϕ	6
有意水準	α	0.05
棄却値		12.59157742

帰無仮説は棄却されない = 関係がない。

以上の結果より、1998 年のクロス集計結果のみ「名前の要素」と「対象物のとらえ方」の間には何らかの関係がみられるという結果が出たが、その他の年はすべて、帰無仮説は棄却されず、「名前の要素」と「対象物のとらえ方」の間には関係がないという結果がでているため、Yさんの「名前の要素」と「対象物のとらえ方」には関係が見られないことが分かった。

4-3 聞き取り調査結果

ここでは 2002 年 12 月 8 日に、大阪市立東淀川勤労者センターにおいて開催されたあきんど会の寄り合いで行った聞き取り調査の結果を掲載する。調査対象者 8 人のうち 5 人はあきんど会結成時からの会員で活動年数は 8 年以上であり、残りの会員はそれぞれ 7 年、6 年、5 年の活動年数である。またこの 8 人はすべて大阪市環境保健局の『地球館パートナーシップクラブ』の会員であり、いずれもあきんど会入会以前から観察の経験がある。

以上の属性を持つ会員に対し個別ではなく一度に全員に質問をして個々人に記述してもらった。以下はその項目である。

まち歩きの活動を続けていて、何か注目するものができましたか。

普段、どんな時に仕入れに行きますか。

まち歩きを始めてから、日常生活で変化したことはありますか。

活動を重ねていくうちに、ものごとに対して見方が変わったことはありますか。

一度引札にしたものを、あとから再び見に行ったり仕入れたことはありますか。

他の人が名づけたものの名前や、その対象物を覚えていますか。

この項目に対する回答を以下に個別に示す。

4-3-1 S さん（活動年数 8 年以上、60 代、女性、住吉区在住）

ある。街灯が気になる。

道を歩いているとき。カメラを持ってないときは、行けるところはもう一度行くがそうでないときはあきらめなしょうがない。

なんでも、つと、見立てをしてみることがある。

なんでも拡大解しゃくしたくなった。

見ることはあるけど見に行くことはない。

あゝ、これやこれやと意識してみることもあり。その名前は記憶にあることも、ないこともある。

4-3-2 C さん（活動年数 8 年以上、70 代、女性、城東区在住）

特になし。

ひまな時 歩きに行くとき

自分の家の周辺の移り変わりに注意するようになった

フェンスの草むらばかり見るようになった

前に名付けたものでも後日変わった名付けをすることがあるが、その場所へわざわざ

ざ行くことはない。

覚えてない。

4-3-3 Tさん（活動年数8年以上、70代、女性、旭区在住）

別にない。

道を歩く、町歩きの時（ゆっくり、ゆとりのある時）

毎日の事です。買物でもどんな時も、キョロキョロとまわりを見ている（あぶなくない程度に）

色々な型に見える。見てしまう。ああしたら良いなこうしたら良いなと自分なりに考える

見に行きたい物もあるがまだ行ってない。（窓の高さまで丁度伸びた木のこと、あの時よりどれ位高くなったかな・と思っている。）

おぼえていない 自分の事でせい一杯です。

4-3-4 Mさん（活動年数8年以上、50代、女性、都島区在住）

特にないけど道草。なかなか名が付かない

いつでも外に出てる時。カメラのない時に見つける事があったら近くならもう一度行く

写真をうつす回数が増えた キョロキョロ観察するようになった

車止めの石や、歩道の段差など今迄見過ごしていたものが気にかかる
ない。

インパクトのあるものなら覚えてる。自分が知っていたものとか。

4-3-5 Yさん（活動年数8年以上、70代、女性、東淀川区在住）

ある。町並、碑

意識して歩くときよりも、何げなく歩いているときに珍しいものをみる。

何をみても名づけしたくなる。

樹木の切り口（枝をはらう）に動物的な生き物を感じることがある。

同じものを二回、三回、みると名づけが変わることがある。その時の気分によります。

人の名づけは覚えていないが私なら名づけたいと思うことがある。

以下は引札分析を行わなかった会員の回答である。

4-3-6 Oさん（活動年数7年、40代、女性、吹田市在住）

これといって無い。なんでもOKよ。

いつでも...どこでも。カメラなかったら、あきらめる。いけるときは、もういっぺん行く。
つい引札に出来るかどうか考えてしまう。多角的に、もの事がみられるようになったかな？
同上（ の後半と同じ）

わざわざはいかない。同じものが（複数）あるときは、気分によって名づけは変わる。

「つけてたなあ」ということはおぼえてることがあるけど...おぼえてることもあるよ、たぶん。

4-3-7 Kさん（活動年数6年、40代、男性、東淀川区在住）

ある（建物や看板など）

仕事などで町を歩いているとき

ふだん町を歩いている時によくまわりを見るようになった。

物に対する見方が変わった。名付けができないか考えるようになった。

わざわざはないがまだあると思う。名付けについては変わるかも。

あの名前のものだと思う。特にインパクトのあるものは。

4-3-8 Jさん（活動年数5年、30代、男性、中央区在住）

狛犬（厳密には商品ではないが）

思いついた時（カメラのある時）

ふと「名付できないか？」と思う時がある（何かを見た時）

（？）

わざわざ行くことはない。次に見た時にイメージが変わることはある

覚えていることもある

4-4 聞き取り調査結果による考察

この聞き取り調査から、あきんど会の会員がまち歩きを始めてから変わったこと、習慣になったことなどを読み取ることができる。また、「名づけ」という仕掛けが個人に与える影響も読み取ることができる。「名前をつける」という行為を通じ、自分を取り巻く環境や身の回りの出来事への関心を高める効果が得られると考えられる。

4-5 引札分析と聞き取り調査による考察

引札分析と聞き取り調査を合わせた考察を行った。対象物の単純集計と聞き取り調査の回答に関して、街灯が気になるSさんは「公共物」「人工物」の引札が多く、いずれも街灯はあてはまる。また、景色や碑が気になるYさんは「人工物」の引札は多いが「景色・雰囲気」は2001年のみ多い。「記念碑系」も毎年多い訳ではない。よってYさんについて

は必ずしも意識しているものと引札にするものが同じとは言えないという結果が分かった。